

医王病院ニュース

患者さん一人ひとりに寄り添い、心のふれあいを大切にし信頼される医療を目指します。



迎春

白山をバックに飛ぶコハクチョウ

冬号
第52号

令和2年1月17日発行

新年挨拶

世界のチェリスト ～吉井健太郎氏～ 素敵な演奏会♪
「こんな夜更けにバナナかよ」の作者 渡辺一史さんの講演会を開催いたしました
第6回筋ジストロフィー医療研究会に参加して
第73回国立病院総合医学会

石川県立医王特別支援学校

外来担当表、病院案内図

新年挨拶

院長 駒井 清暢



皆さん、新年おめでとうございます。皆さんは令和になって初めての元旦を迎えて、どのような感想を持たれたでしょうか。私はといえば、31年前にあたる平成2年元旦を迎えた頃には現在の医療の姿や次の改元に立ち会うことを全く想像していませんでした。

さて2019年の日本は、ラグビーワールドカップでの日本代表快進撃に湧き、流行語年間大賞に「ONE TEAM」が選ばれたことは皆さんの記憶にも新しいことでしょう。医王病院でも2019年は、10月に外来管理棟竣工をむかえて15年におよぶ病院建物更新が完了したことで、節目の年になったと言えます。

2020年は十二支の「子年」、60年で一巡する干支で表現すると「庚子（かのえ・ね）」にあたります。ちょうど60年前の庚子にあたる1960年は、国内では日米安全保障条約が結ばれ、「所得倍増計画」が発表されるなど日本の高度成長期のはじまりでした。国際的には、「アフリカの年」と言われるほど西欧諸国の植民地だったアフリカで多くの独立が達成され、米国には新しい時代のリーダーとしてジョン・F・ケネディが「ニューフロンティア」を掲げて大統領当選を果たしました。こう振り返ると2020年も「庚子」らしく世の中に新しい流れがはじまる年になるのかも知れません。

そんな中で私たちは、医王病院の2020年を新しくなった建物にふさわしい中身を充実させるスタートにしたいと思っています。具体的には、2020年度中に日本医療機能評価機構による病院機能評価を受けるための準備を本格化します。この病院機能評価とは、患者さんが安全で安心の医療を受けられるよう第三者機関である日本医療機能評価機構が、中立的・科学的・専門的な観点から病院組織全体の運営管理および提供される医療についての評価を行うものです。私たち医王病院には、この機能評価を受ける準備を通して医療の質を高める仕組みを強固にしていくことが求められます。

医王病院職員一同、新しくなった建物に見劣りすることなく、各々の役割に応じた研鑽を今後も重ねて参りますので、本年もどうぞよろしくお願い申し上げます。

世界のチェリスト ～吉井健太郎氏～ 素敵な演奏会♪

保育士 藤本 智絵



重厚感溢れるチェロの音色が病棟に響き渡り、患者さん、ご家族、職員など演奏会に参加した人みんながうっとり表情。

11月8日(金)、世界的に有名なチェリスト吉井健太郎氏によるチェロの演奏会が行われました。当日は序章の演奏から始まり、一つひとつ丁寧に曲の流れ、情景などを説明しながら演奏してくださいました。演奏会はその説明を聞きながら進んでいきましたので、演奏を聴いている私たちも曲の情景を想像し、曲への理解を深めながら楽しむことができました。

演奏会ではいつもは集団での行事が苦手な方も、この日は吉井氏のチェロを演奏する手の動きや、チェロの音色に興味津々！で、とても穏やかな表情で演奏に聞き入っている様子が見られました。その様子にスタッフもびっくり！患者さんの意外な一面の発見☆となりました。また、チェロの音色に合わせて手を動かしたり、「どうしても演奏が聞きたい！！」と、嬉しそうに参加される患者さんもいたり、患者さんの色々な表情を発見する場にもなりました。

演奏会後には、患者さんやご家族との握手や写真撮影などの触れ合いにも快く応じてくださり、ご家族の中には喜びを言葉にできず、少し涙ぐむ方も！

吉井氏の穏やかな人柄、素敵なチェロの演奏にとっても魅了された時間となりました。今後も、患者さんの素敵な表情を見られるような行事を計画していきたいと思います。ご参加、ご協力いただいた皆様本当にありがとうございました。



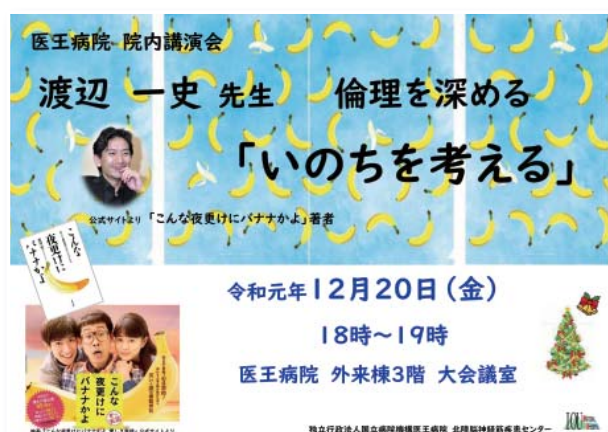
「こんな夜更けにバナナかよ」の作者 渡辺一史さんの講演会を開催いたしました

医療福祉部 地域医療連携室 中本 富美

昨年12月、院内の倫理研修会にて「いのちを考える」と題して、渡辺一史氏をお迎えし、講演会を開催いたしました。当日は院内外より100名を超える参加者があり、大盛況の講演会となりました。

当院は筋ジストロフィー病棟を有する病院であり、渡辺さんの作品を手にしていただいていた職員も多く、かねてから職員にとっても重症の障害がある人の自立は関心の高いものでした。渡辺さんは物語の主人公鹿野さんについて“息をすること・食べることなどの生きる行為そのものが必死”な当事者の主張は時に「わがまま」ととらえられてしまう。お互いに反発しあいながら、その一方で彼らにかかわるボランティアたちが次第に自身の価値や考え方の変化に気づき、自分の意思を形作ることへの苦労や創造力に対して畏敬の念を抱いていくという内容に、患者さんと自分自身の関係を振り返る機会となりました。当然のように言われていることではありますが、「関係性」とはどちらかだけが一方的な関係を築いているのではなく双方向であり循環している、ということを確認しました。

また渡辺さんが『人間関係の原理』について話されている中で、「人は人を支えているという思いに支えられ、私たちは生きていく」、という言葉に胸が熱くなりました。これまで私自身がソーシャルワーカーとして患者さんに育てていただいたことに深く感謝し、これからも患者さんとの関係から学び、成長していきたいと思っております。



第6回筋ジストロフィー医療研究会に参加して



統括診療部長 高橋 和也

2019年10月11日～12日にかけて青森で行われた第6回筋ジストロフィー医療研究会に参加してきました。北は北海道から南は沖縄県の病院から参加者があり、筋ジストロフィーに特化したテーマで様々な演題発表がありました。その中で沖縄の病院の先生の災害に備えた体制構築についての話は非常に興味深いものでありまし

た。10月12日から13日にかけては台風19号によって甚大な被害が各地にもたらされた（北陸新幹線も車両基地が浸水し金沢に帰るのも大変でした）のですが、沖縄では毎年多くの台風が直撃するとのことで、地震などと違い台風のように前もって予想される災害は、事前の十分な対策が可能であり、災害当日に慌てるようでは医療機関として対策がなっていない！！というまさに目からうろこが落ちるような講演でした。当院でも早速在宅医療対策チームを中心に予期できる災害用の行動マニュアルの改訂に取り掛かっています。その他多くのことを学んで帰ってきましたので、拠点病院として筋ジストロフィー医療の質をあげるように学んだことを生かして頑張っていきます。

第5病棟 看護師 勝田 純子

2019年10月に青森県で開催された第6回筋ジストロフィー医療研究会に参加しました。今回の研究会では「初学者のための多職種連携診療モデル：パネルディスカッション・セミナー」に病棟看護師の関わりについてパネリストとして討論させて頂きました。各職種の関わりでは病棟看護師としてできることは何かを考える機会となりました。

今回、パネルディスカッションを通して、24時間患者さんのそばにいる看護師は、患者さんが発言した言葉を大切に受けとる、その言葉はどのように見て、考えそして判断したのか医療者に正確に伝えることが大切と感じました。患者さんは日々、身体のことや、これからのことを考え過ぎています。患者さんが伝えてくる言葉には、「今ならできる、今しかできない」という思いを込めて医療従事者に協力を求めていることがあります。食事のこと、家族と過ごすこと、外出することなど、患者さんと同じ目線で目標を決め、一緒に目標に向かう気持ちが重要と考えます。そのためには、多職種で話し合う機会をもうけ、同じ目標に向かい、お互いの知識を持ち寄ることが必要であると考えました。自分の知識を最大限に発揮し、多職種と連携、協働することが、これからの患者さんの1日1日の生活の向上に繋がると深く感じました。

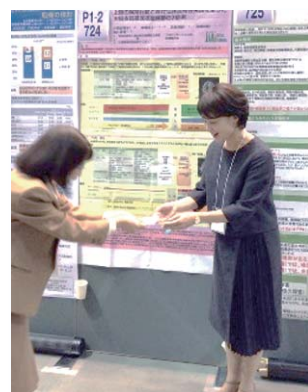
第73回国立病院総合医学会

教育担当師長 安田 千鶴



2019年11月8日、9日に名古屋国際会議場にて第73回国立病院総合医学会が開催されました。「令和における国立医療の挑戦～明日は変えられる～」をテーマに、国立病院機構・国立高度専門医療研究センター・国立ハンセン療養所の職員が全国から参加し、活発な議論や情報交換がされました。また特別講演では、オリンピック3連覇を果たされたレスリング選手・指導者である吉田沙保里さんの「～夢追い人～夢や情熱を持ち続けることの大切さ」の講演もありました。

当院は毎年、国立病院総合医学会に積極的に参加しています。学会前には2日間にわたって院内予行会を実施し意見交換しました。そして、多職種におよぶ31題の演題発表を行い、4題がベストポスター賞を受賞という大変嬉しい結果となりました。



【ベストポスター賞受賞者】

第1診療部長 田上 敦朗	OODAループを用いた内視鏡システム電源コンセントの安全対策
第3診療部長 石田 千穂	多系統萎縮症 L-dopa有効例の臨床病理学的特徴
主任理学療法士 廣田 智也	呼吸介助法の院内研修会を実施して ～アンケート調査から分かったこと～
主任言語聴覚士 木田 由貴子	上肢の異常行動と進行性非流暢性失語を呈した 大脳皮質基底核症候群の2症例

学会後、ベストポスター賞の研究発表を病院管理フロアに掲示しました。立ち止まって興味深く見ている職員の姿もあり、研究への関心の高まりを感じました。予行会や学会を通して学んだことを、これからの研究活動支援、看護教育活動につなげていきたいと思えます。





入院中の子どもたちも 継続的な教育が受けられます！

- 石川県における病弱教育を担う特別支援学校は、医王特別支援学校、及び小松みどり分校です。
※病弱教育とは、何らかの病気により長期にわたって医療（入院・治療）を要する子どもたちへの教育です。
- 医王特別支援学校は、隣接する医王病院に入院しながら教育を受けることができる県立の学校です。
- 個々に応じて、学習空白や遅れを補う教育をしていきますので、安心して入院し治療できます。
- 医王特別支援学校には、小学部、中学部、高等部、分教室、病院訪問教育があり、希望に応じて進学・就労などの進路指導も行っています。

< 医王特別支援学校の様子 >

教育ウィーク講演会

医王病院の吉田ソーシャルワーカーを講師にお迎えして講演会を行いました。「ソーシャルワーカーの紹介」の演題で、本校教職員に外部から2名の参加者を加え、ソーシャルワーカーの業務について詳しくお話をうかがうことができました。

実際のソーシャルワーカー支援として事例紹介されたお話は、本人の困り感に対し、ソーシャルワーカーとしてどのように関わっていったのかがよく分かり、子どもに対する愛情や熱意が伝わってくるすばらしいお話でした。



小中高 2学期頑張ったね会

今年最後の学部会で「2学期頑張ったね会」をしました。最初は、児童生徒と教員が2学期に頑張ったことを一人ずつそれぞれ発表しました。次に、児童生徒が考えた「お題あてゲーム」と「伝言ゲーム」をしました。2つのゲームでは、児童生徒が教員の、教員が児童生徒のお題を決めて、それぞれ何を書いたか、どんなことを伝えようとしたか答えました。両チームとも白熱した戦いになり、大変盛り上がりました。児童生徒の生き生きとした姿が見られて楽しい会になりました。



病棟訪問教育（分教室） 冬のお楽しみ会

今年も冬のお楽しみ会の季節がやってきました。校長先生や教頭先生もサンタの衣装に着替えて、トナカイ役の先生とともに、児童生徒たちにプレゼントを持ってきてくれました。

まず、ライトでピカピカの素敵なツリーをベッドサイドに飾り、色々なデザインのかわいいサンタの帽子をかぶったり、トナカイのかわいいカチューシャをつけたりしました。そして、病棟訪問教育(分教室)の先生方が歌って踊った『クリスマスクリスマス』の動画を見ながら、みんなで演奏しました。みんな自然と笑顔になりました。なによりうれしいのは、お友達からの手作りクリスマスカードとサンタさんからのプレゼントです。

プレゼントはそれぞれの先生方が児童生徒の喜ぶ顔を思い浮かべて買って来たことは…秘密です。



ここでは紹介しきれなかった行事、授業の様子などがたくさんあります。日々の児童生徒の授業、行事の様子や自然に囲まれた校舎の様子などを学校ホームページで紹介します。

「石川県立医王特別支援学校HP」は、
<http://www.ishikawa-c.ed.jp/~iouxx>
パソコン、携帯電話等からご覧いただけます。
ぜひご覧ください！



～ 外来診察のご案内 ～

【診察時間】

午前 診察受付/午前8:30～11:30
診察時間/午前9:00～正午

午後 診察受付/午後3:00～4:30
(小児科のみ) 診察時間/午後3:00～5:00
(予防接種の方は午後3:00～4:30)
※午後の一般内科は休診です

【休診日】土曜・日曜、祝日

●小児科外来担当

	診療科	月	火	水	木	金
午前	一般	中村	加藤	中農	丸箸	大野
午後	一般	脇坂	梅	山田	村岡	横井

●内科外来担当

	診療科	月	火	水	木	金
午前	一般内科	高橋(1.2.3.5週) 本崎(4週)	田上	疋島	高橋 本崎	田上
	脳神経内科	疋島	駒井 本崎	石田 高橋	駒井 林	石田 林
	呼吸器内科		田上			田上

●皮膚科

	診療科	月	火	水	木	金
午前	皮膚科	山本	山本	山本	山本	山本

●専門外来(要予約)

<小児心身症> 大野
<言語> 中村・脇坂・横井
<発達/神経/てんかん> 脇坂・横井
<重症心身障害児> 丸箸
<筋ジストロフィー> 大野・脇坂
<肥満> 山田

～ 患者さんの権利と義務 ～

患者さんは誰でも人間としての尊厳を大切にされ、医療を受ける権利を有します。また、医療は患者さんと病院職員が、お互いの信頼関係に基づき共に作り上げていくものです。したがって患者さんには医療に積極的に参加していただくことが必要です。

当院はこのような考えに基づき、下記の「患者さんの権利」を尊重して医療を提供いたします。また患者さんは「患者さんの義務」を果たされるようお願い致します。

患者さんの権利

1. 患者さんは良質な医療を公平に受ける権利を有します
2. 患者さんは病気にに関する情報や検査・治療についての説明を聞き、自分の受ける医療を選択できます
3. 患者さんは個人情報保護される権利を有します
4. 患者さんはいつでもカルテ開示を求める権利を有します
5. 患者さんはいつでもセカンドオピニオンを求める権利を有します

患者さんの義務

1. 患者さんには病院の諸規則を守る義務があります
2. 患者さんには自ら病気を治そうと努力し、また病気に関し病院職員の指示を守る義務があります
3. 患者さんには他の患者さんの治療や検査、快適な療養生活に支障を与えないように配慮していただく義務があります
4. 患者さんには当院での入院治療が必要でなくなった時には退院頂く義務があります
5. 患者さんには医療費の外、利用契約に基づく一部負担金などを支払う義務があります

医師および医療従事者の権利

医師および医療従事者は、自らの良心や医療倫理に相反することに対して、患者さんからの要求があっても拒否する権利があります

～ 医王病院 出前公開講座 ～

認知症の基礎知識と早期発見のポイント

医王病院では毎年出前公開講座を行っております。本年度のテーマは、「認知症の基礎知識と早期発見のポイント」です。講座ご希望のグループなどがございましたら、お気軽に医王病院管理課までご連絡ください。TEL076-258-1180 (内線2100)



職員募集

詳しくは人事担当までお問い合わせください。



独立行政法人 国立病院機構 **医王病院**
北陸脳神経筋疾患センター

- 交通アクセス
- ・JR金沢駅よりJRバス(福光行、田ノ島行、中尾行)で30分、医王病院前下車
- ・IR森本駅より徒歩15分・北陸自動車道 森本ICより車で5分・山側環状線より車で5分

〒920-0192 金沢市岩出町二73-1 TEL.076-258-1180 FAX.076-258-6719 <https://iou.hosp.go.jp/>

■発行者 医王病院 ■発行人 駒井清暢 ■発行日 令和2年1月17日 ■印刷所 株式会社ハクイ印刷

この広報は高精細340線で印刷したものです。

この印刷物は、E3PAのゴールドプラス基準に適合した地球環境にやさしい印刷方法で作成されています
E3PA:環境保護印刷推進協議会

